

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2001-266244

(43)Date of publication of application : 28.09.2001

(51)Int.Cl.

G07F 17/12

(21)Application number : 2000-124989

(71)Applicant : ALMEX INC

(22)Date of filing : 22.03.2000

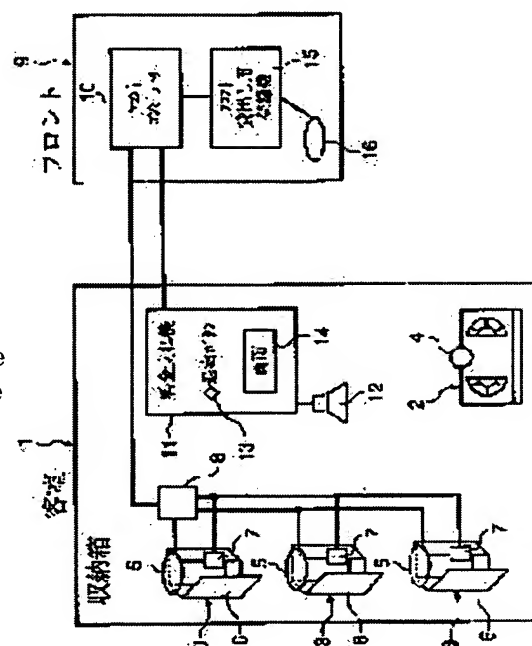
(72)Inventor : HATAGAKI TATSUJI

(54) MANAGEMENT SYSTEM FOR RENTAL ARTICLE IN GUEST ROOM

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To improve the convenience to customers and the use value of guest rooms, to increase a customer's incentive to amusements and pleasures, and to save the labor for facilities by enabling a customer to rent and return a rental article that a guest room is furnished with automatically on a rental basis while staying in the guest room.

SOLUTION: This is a management system for rental articles in guest rooms of a hotel, a KARAOKE hall, etc., and each guest room 1 is provided with a storage box 3 which contains a rental article 2 and a storage box controller 8 which controls the opening and closure of the storage box 3, and the rental article 3 is fitted with a contactless type electronic identification tag 4; and the storage box 3 is provided with an electronic lock and an antenna 5 which reads the electronic identification tag 3. When a customer enters the guest room 1, the storage box controller 8 actuates the antenna 5, which reads the electronic identification tag 4 and detects the rental article 2 put in the storage box 3 to notify a front computer 10 of the detection result, so that the electronic lock is unlocked thereafter.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

18.04.2000

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

3122096

[Date of registration]

20.10.2000

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

20.10.2003

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-266244

(P2001-266244A)

(43) 公開日 平成13年9月28日 (2001.9.28)

(51) Int.Cl.⁷

G 0 7 F 17/12

識別記号

F I

G 0 7 F 17/12

テーマコード* (参考)

3 E 0 4 8

審査請求 有 請求項の数 5 書面 (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願2000-124989(P2000-124989)

(22) 出願日 平成12年3月22日 (2000.3.22)

(71) 出願人 000222624

株式会社アルメックス

東京都台東区雷門2丁目19番17号

(72) 発明者 幡垣 辰治

東京都台東区雷門2-19-17 株式会社アルメックス内

(74) 代理人 100108545

弁理士 井上 元廣

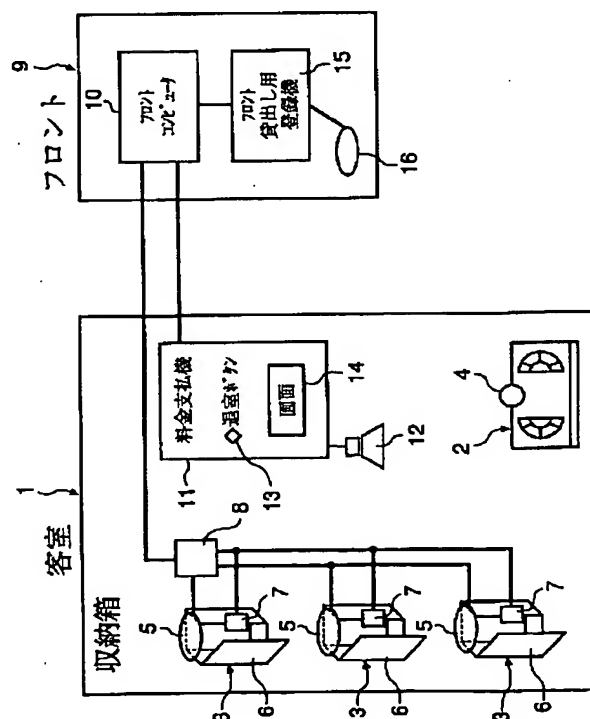
Fターム(参考) 3E048 CA17 DA03

(54) 【発明の名称】 客室における貸出し物の管理システム

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 客室に備え付けの貸出し物を、顧客が客室に居ながらにして、レンタル方式で自動で貸し出し返却させることができるようにして、顧客の利便性と客室の利用価値の向上、顧客の娯楽心・遊興心の高揚、施設の省人化等を図る。

【解決手段】 ホテル、カラオケボックス等の客室における貸出し物の管理システムであって、客室1には、貸出し物2を収納する収納箱3と、収納箱3の開閉を制御する収納箱制御装置8とが設けられ、貸出し物2には、非接触式の電子式識別荷札4が取り付けられ、収納箱3には、電気錠と電子式識別荷札4を読み取るアンテナ5とが設けられ、顧客が客室1に入室すると、収納箱制御装置8は、アンテナ5を起動させ、アンテナ5が電子式識別荷札4を読み取って収納箱3に収納されている貸出し物2を検知すると、その検知結果をフロントコンピュータ10に報知し、その後、電気錠を解錠するようにしている。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 ホテル、カラオケボックス等の客室における貸出し物の管理システムであって、前記客室には、前記貸出し物を収納する1個もしくは複数個の収納箱と、該収納箱の開閉を制御する収納箱制御装置とが設けられ、前記貸出し物には、非接触式の電子式識別荷札が取り付けられ、

前記収納箱には、電気錠と前記電子式識別荷札を読み取るアンテナとが設けられ、

顧客が前記客室に入室すると、前記収納箱制御装置は、前記アンテナを起動させ、前記アンテナが前記電子式識別荷札を読み取って前記収納箱に収納されている前記貸出し物を検知すると、その検知結果をフロントコンピュータに報知し、その後、前記電気錠を解錠するようにしたことを特徴とする客室における貸出し物の管理システム。

【請求項2】 前記収納箱制御装置は、前記アンテナが前記電子式識別荷札を読み取らなくなると前記収納箱に収納されていた前記貸出し物を検知しなくなるかもしくは前記アンテナが前記電子式識別荷札を読み取って貸し出されていた前記貸出し物を前記収納箱内に検知すると、その検知結果を前記フロントコンピュータに報知し、

次いで、前記フロントコンピュータは、前記アンテナが検知しなくなった前記貸出し物を貸し出された物と判断して、該貸出し物が有料か無料かを判断し、有料の場合には、前記客室の利用料金に加算するようにしたことを特徴とする請求項1記載の客室における貸出し物の管理システム。

【請求項3】 前記フロントコンピュータは、前記顧客が前記客室を退室するとき、その退室信号を受けて、前記収納箱制御装置から送られてきた過去の報知の履歴から、前記顧客に貸し出した物があるか否か、貸し出した物がある場合には、該貸出し物が全て前記収納箱に返却されているか否かを判断し、その結果、該貸出し物のいくつかが前記収納箱に返却されていないことが判明すると、前記顧客に該貸出し物を前記収納箱に返却するように促す情報を発する指令信号を発し、前記顧客が前記情報を無視して再度退室を希望した場合には、返却されない該貸出し物に相当する金額を前記客室の利用料金に加算し、その後、前記電気錠を施錠する指令信号を前記収納箱制御装置に発するようにしたことを特徴とする請求項2記載の客室における貸出し物の管理システム。

【請求項4】 前記顧客に前記貸出し物を前記収納箱に返却するように促す情報を発する手段は、前記客室に設置された機器に内蔵されるスピーカもしくはディスプレイ表示手段もしくはそれらの双方であることを特徴とする請求項3記載の客室における貸出し物の管理システム。

【請求項5】 貸し出されていた前記貸出し物には、フロントにおいて貸し出され、貸し出されたことが記憶された貸出し物が含まれることを特徴とする請求項2ないし請求項4のいずれか記載の客室における貸出し物の管理システム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本願の発明は、客室における貸出し物の管理システムに関し、特にレジャー型旅館・ホテルやカラオケボックス等の客室に備え付けの貸出し物を、顧客が客室に居ながらにして、レンタル方式で顧客に自動で貸し出し返却させるようにして、顧客の利便性と客室の利用価値の向上、施設の省人化等を図った客室における貸出し物の管理システムに関する。

【0002】

【従来の技術】 レジャー型旅館・ホテルやカラオケボックスなど、部屋貸しの施設においては、顧客は、既に客室内に設置されている遊戯機器やフィットネス機器等を有料もしくは無料で利用することができる。遊戯機器の中には、ルームサービスにより提供されるもののほか、客室内の販売機により販売されるものもある。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、通常客室内で販売されない高額の商品や、通常顧客により一度しか使用されない器具・商品は、フロントを通して有料もしくは無料で貸出しが行なわれている。このため、これらの器具・商品の利用を望む顧客は、わざわざフロントまで出向いて、これらの器具・商品の貸出しを受けるか、もしくは従業員にこれらの器具・商品を客室まで運んでもらって、貸出しを受けるかしなければならず、顧客にとって不便であるとともに、娯楽心・遊興心が削られることにもなり、また、施設経営側にとっても、省人化に結び付かないので、経営上不利となる。

【0004】 本願の発明は、従来の客室における貸出し物の管理システムが有する前記のような問題点を解決して、通常客室内で販売されない高額の商品や、通常顧客により一度しか使用されない器具・商品であっても、顧客が客室に居ながらにして自動で貸出しを受け、また、自動で返却することができるようにして、顧客にとっての利便性と客室の利用価値の向上、顧客の娯楽心・遊興心の高揚、宿泊・娯楽施設の省人化とコストの低減等を図ることができる客室における貸出し物の管理システムを提供することを課題とする。

【0005】

【課題を解決するための手段および効果】 本願の発明は、前記のような課題を解決した客室における貸出し物の管理システムに係り、その請求項1に記載された発明は、ホテル、カラオケボックス等の客室における貸出し物の管理システムであって、前記客室には、前記貸出し物を収納する1個もしくは複数個の収納箱と、該収納箱

の開閉を制御する収納箱制御装置とが設けられ、前記貸出し物には、非接触式の電子式識別荷札が取り付けられ、前記収納箱には、電気錠と前記電子式識別荷札を読み取るアンテナとが設けられ、顧客が前記客室に入室すると、前記収納箱制御装置は、前記アンテナを起動させ、前記アンテナが前記電子式識別荷札を読み取って前記収納箱に収納されている前記貸出し物を検知すると、その検知結果をフロントコンピュータに報知し、その後、前記電気錠を解錠するようにしたことを特徴とする客室における貸出し物の管理システムである。

【０００６】請求項１に記載された発明は、前記のように構成されており、ホテル、カラオケボックス等の客室において、顧客が客室に入室すると、収納箱制御装置は、この入室を感知して、アンテナを起動させ、該アンテナが貸出し物に取付けられた電子式識別荷札を読み取って収納箱に収納されている該貸出し物を検知すると、その検知結果をフロントコンピュータに報知し、その後、収納箱に設けられた電気錠を解錠するので、顧客は、自分がわざわざフロントまで出向くことなく、また、従業員がわざわざ客室まで足を運ぶことなく、客室に居ながらにして、収納箱に収納された貸出し物の貸出しを自動で受けることができる。これにより、顧客にとっての利便性および客室の利用価値が向上して、顧客の娯楽心・遊興心を高揚させることができる。また、宿泊・娯楽施設の省人化を図ることができる。

【０００７】また、請求項２記載のように請求項１記載の発明を構成することにより、収納箱制御装置は、アンテナが電子式識別荷札を読み取らなくなると収納箱に収納されていた貸出し物を検知しなくなるもしくはアンテナが電子式識別荷札を読み取って貸し出されていた貸出し物を収納箱内に検知すると、その検知結果をフロントコンピュータに報知し、次いで、フロントコンピュータは、アンテナが検知しなくなった貸出し物を貸し出された物と判断して、該貸出し物が有料か無料かを判断し、有料の場合には、客室の利用料金に加算するようにする。

【０００８】この結果、アンテナは、常時収納箱への貸出し物の出入りを監視し、収納箱制御装置は、その監視結果（貸出し物の出入りの検知結果）を受けて、貸出し物の出入り状況をフロントコンピュータに報知しているので、フロントにおいて、常時客室における貸出し物の貸出し状況を把握することができる。そして、貸出し物が貸し出されたことが報知されると、その貸出し物が有料か無料かを自己の保有する貸出し物テーブル等から判断して、有料の貸出し物が貸し出された場合には、客室の利用料金に加算するので、顧客は、自分がわざわざフロントまで出向くことなく、また、従業員がわざわざ客室まで足を運ぶことなく、客室に居ながらにして、収納箱に収納された貸出し物のレンタル方式による貸出しを自動で受けることができる。また、レンタル方式による

貸出し物の貸出しサービスが行なわれるので、今まで客室での販売が難しかった高額の商品や、通常顧客により一度しか使用されない器具・商品であっても、顧客は、これらの器具・商品を安価にかつ手軽に利用することができる。これらにより、顧客にとっての利便性および客室の利用価値がさらに向上して、顧客の娯楽心・遊興心をさらに高揚させることができる。また、宿泊・娯楽施設の省人化をさらに図ることができる。

【０００９】また、請求項３記載のように請求項２記載の発明を構成することにより、フロントコンピュータは、顧客が客室を退室するとき、その退室信号を受けて、収納箱制御装置から送られてきた過去の報知の履歴から、顧客に貸し出した物があるか否か、貸し出した物がある場合には、該貸出し物が全て収納箱に返却されているか否かを判断し、その結果、貸出し物のいくつかが収納箱に返却されていないことが判明すると、顧客に該貸出し物を収納箱に返却するように促す情報を発する指令信号を発し、顧客が該情報を無視して再度退室を希望した場合には、返却されない該貸出し物に相当する金額を客室の利用料金に加算し、その後、電気錠を施錠する指令信号を収納箱制御装置に発するようにする。

【００１０】この結果、顧客が客室を退室するとき、収納箱に返却されていない貸出し物があると、その貸出し物の収納箱への返却を顧客に求め、それでもその貸出し物が収納箱に返却されないで、顧客が客室を退室するときには、その貸出し物に相当する金額を客室の利用料金に加算して弁償させ、その後の貸出し物の持ち出しを不可能にすることができるので、貸出し物の自動返却が確実に実行されるとともに、宿泊・娯楽施設の保安を図ることができる。

【００１１】このようにして、顧客は、貸出し物の貸出しを受けたり貸出し物を返却するために、自分がわざわざフロントまで出向いたり、また、従業員がわざわざ客室まで足を運んだりする必要がなく、顧客にとっての利便性および客室の利用価値が向上して、顧客の娯楽心・遊興心を高揚させることができる。また、宿泊・娯楽施設の省人化と保安を図ることができる。

【００１２】さらに、請求項４記載のように請求項３記載の発明を構成することにより、顧客に貸出し物を収納箱に返却するように促す情報を発する手段は、客室に設置された機器に内蔵されるスピーカもしくはディスプレイ表示手段もしくはそれらの双方であるようにされるので、客室に設置される機器を複数用途に兼用することができ、機器の設置数を節約して、コストの低減を図ることができる。

【００１３】さらにまた、請求項５記載のように請求項２ないし請求項４のいずれか記載の発明を構成することにより、貸し出されていた貸出し物には、フロントにおいて貸し出され、貸し出されたことが記憶された貸出し物が含まれるようにされる。

【0014】この結果、全客室分の貸出し物を用意する必要がなくなり、顧客が客室を退室するときには、従業員が、わざわざ貸出し物を客室に取りに行く必要もない。しかも、電子式識別荷札の使用により、返却の有無を自動的かつ確実に確認することができる。これらにより、宿泊・娯楽施設の省人化とコストの低減をさらに図ることができる。

【0015】

【発明の実施の形態】以下、図1および図2に図示される本願の請求項1ないし請求項5に記載された発明の一実施形態について説明する。図1は、本実施形態の客室における貸出し物の管理システムの機器構成を示す図、図2は、同管理システムの動作フローチャートを示す図である。

【0016】本実施形態の客室における貸出し物の管理システムは、主としてビジネス・レジャー用の旅館・ホテルやカラオケボックス等の客室に適用される。このような旅館・ホテルやカラオケボックスにおいては、フロント人員が大幅に削減されていて、顧客は、チェックイン・チェックアウトをフロント用自動精算機を利用して行なうことができる。

【0017】また、このような旅館・ホテルやカラオケボックスにおいては、客室内における各種遊戯機器やフィットネス機器を有料もしくは無料で利用することができる。有料で利用することができる機器のうちには、通常客室内では販売されない高額の商品（楽器類、パソコン等）や、通常顧客により一度しか使用されない器具・商品（ビデオテープ、CD、ズボンセッター等）が含まれる。これらの器具・商品は、本実施形態における客室における貸出し物の管理システムにより、客室において自動的に貸出し、返却がなされるようにされており、顧客は、これらの器具・商品を、客室に居ながらにして、レンタル方式により安価に利用することができる。

【0018】以下、本実施形態の客室における貸出し物の管理システムについて詳細に説明する。図1に図示されるように、客室1には、貸出し物2を収納する1個もしくは複数個（図示例では3個）の収納箱3が設けられている。各収納箱3には、通常1個の貸出し物2が収容されるが、単体容積の小さい器具・商品（ビデオテープ、CD等）の場合には、複数個の貸出し物2が収容される場合もある。図1においては、貸出し物2の例として、ビデオテープが図示されている。

【0019】各貸出し物2には、非接触式の電子式識別荷札4が取り付けられており、各収納箱3には、その天井部に電子式識別荷札4を読み取るアンテナ5が設けられている。このアンテナ5は、収納箱3の背が高い場合には、収納箱3の天井を開放して、そこに収納箱3の内部を臨むようにして設けられてもよく、また、収納箱3の背が低い場合には、収納箱3の天井板の内面に沿って取り付けられてもよい。

【0020】収納箱3の前扉6には、電気錠が設けられており、この電気錠を自動的に作動させる（施錠する）ことができるように、施錠機7が取り付けられている。この施錠機7は、客室1内に設置された収納箱制御装置8により制御される。したがって、収納箱3は、収納箱制御装置8により開閉制御される。

【0021】次に、本実施形態の客室における貸出し物の管理システムの動作フローについて、図2に図示されるフローチャートを参照しつつ、説明する。まず、顧客が客室1に入室すると（ステップS1）、収納箱制御装置8は、この入室を感知して、アンテナ5を起動させ（ステップS2）、該アンテナ5が電子式識別荷札4を読み取って収納箱3に収納されている貸出し物2を検知すると、その検知結果をフロント9に設置されたフロントコンピュータ10に報知する。フロントコンピュータ10は、これを記憶する（ステップS3）。

【0022】その後、収納箱制御装置8は、前扉6の電気錠を解錠するように施錠機7に指令して、施錠機7内のアクチュエータ（図示されず）を動作させ、収納箱3を自動的に開放（解錠）する（ステップS4）。

【0023】顧客が客室1に入室した後は、アンテナ5は常時作動しており、収納箱3内の貸出し物2の有無を常に監視している（ステップS5）。そして、アンテナ5が電子式識別荷札4を読み取らなくなって収納箱3に収納されていた貸出し物2を検知なくなると、収納箱制御装置8は、その検知結果を受けて、これをフロントコンピュータ10に報知する（ステップS6）。

【0024】次いで、フロントコンピュータ10は、アンテナ5が検知しなくなった前記貸出し物2を貸し出された物と判断して、該貸出し物2が有料か無料かを自己の保有する貸出し物テーブル等から判断し（ステップS7）、有料の場合には、客室の利用料金に加算するとともに（ステップS8）、該貸出し物2が有料か無料かを問わず、該貸出し物2を貸し出された物として記憶更新する（ステップS9）。以下、ステップS5の前に戻る（イーイ）。

【0025】逆に、アンテナ5が電子式識別荷札4を新たに読み取って貸し出されていた貸出し物2を収納箱3内に検知したときも、収納箱制御装置8は、その検知結果を受けて、これをフロントコンピュータ10に報知するが、このときは、フロントコンピュータ10は、報知を受けてから、その記憶を貸出しから返却に単に記憶更新するのみである（図示されず）。

【0026】アンテナ5が貸出し物2を検知なくなることがなくなり、顧客が客室1を退室する段になると、顧客は、客室1に設置されている料金支払機11に設けられている退室ボタン13を押す退室操作をして、退室をフロントコンピュータ10に報知する（ステップS10、ステップS11）。フロントコンピュータ10は、その退室信号を受けると、収納箱制御装置8から送られ

てきた過去の報知（フロントコンピュータ１０が記憶している）の履歴を調べて、顧客に貸し出した物があるか否か、貸し出した物がある場合には、該貸出し物２が全て収納箱３に返却（収納）されているか否かを判断する（ステップＳ１２、ステップＳ１３）。

【００２７】そして、その判断の結果、該貸出し物２のいくつかが収納箱３に返却されていないことが判明すると、顧客に該貸出し物２を収納箱３に返却するように促す情報を発する指令信号を料金支払機１１に発する。料金支払機１１は、自己が内蔵するスピーカ１２、ディスプレイ表示手段１４等の手段により、この情報を顧客に伝達する（ステップＳ１４）。この場合、スピーカ１２のみが使用されてもよく、双方の手段が使用されてもよい。

【００２８】顧客が、この情報を無視して、再度退室を希望した場合には（ステップＳ１５）、返却されない該貸出し物２に相当する金額を客室１の利用料金に加算し（ステップＳ１６）、その後、電気錠を施錠する指令信号を収納箱制御装置８に発して、収納箱３を閉鎖（施錠）する（ステップＳ１７）。

【００２９】なお、この段階においては、貸出し物２の利用料金およびその弁償料金を含む施設利用料金の総額は確定しているので、顧客は、客室１に設置されている料金支払機１１もしくはフロント９において料金を支払って、退室する（ステップＳ１７、ステップＳ１８）。

【００３０】アンテナ５が、電子式識別荷札４を読み取って貸し出されていた貸出し物２を収納箱３内に検知することになる該貸出し物２の中には、フロント９において貸し出された貸出し物２を含むことができる。この貸出し物２は、貸し出されたことがフロント９に設置されてフロントコンピュータ１０に接続されているフロント貸出し用登録機１５に登録されて、記憶されているので、その後、アンテナ５が該貸出し物２を収納箱３内に検知して、この検知結果が収納箱制御装置８によりフロントコンピュータ１０に報知されると、フロントコンピュータ１０は、この報知結果をフロント貸出し用登録機１５の記憶内容と比較して、該貸出し物２が返却されたことを認識することができる。

【００３１】フロント貸出し用登録機１５には、アンテナ５と同様のアンテナ１６が接続されており、また、フロント９において貸し出される貸出し物２には、電子式識別荷札４と同様の電子式識別荷札（図示されず）が取り付けられているので、アンテナ１６がこの電子式識別荷札を読み取ることにより、フロント貸出し用登録機１５は、フロント９において貸し出される貸出し物２を記憶することができる。

【００３２】本実施形態は、前記のように構成されているので、次のような効果を奏することができる。ホテル、カラオケボックス等の客室における貸出し物の管理システムにおいて、客室１には、貸出し物２を収納する

１個もしくは複数個の収納箱３と、該収納箱３の開閉を制御する収納箱制御装置８とが設けられ、貸出し物２には、非接触式の電子式識別荷札４が取り付けられ、収納箱３には、電気錠と電子式識別荷札４を読み取るアンテナ５とが設けられ、顧客が客室１に入室すると、収納箱制御装置８は、アンテナ５を起動させ、該アンテナ５が電子式識別荷札４を読み取って収納箱３に収納されている貸出し物２を検知すると、その検知結果をフロントコンピュータ１１に報知し、その後、電気錠を解錠して収納箱３を開放するようにしている。さらに、収納箱３が開放されて後には、アンテナ５が電子式識別荷札４を読み取らなくなると収納箱３に収納されていた貸出し物２を検知しなくなるかもしくはアンテナ５が電子式識別荷札４を読み取って貸し出されていた貸出し物２を収納箱３内に検知すると、収納箱制御装置８は、その検知結果をフロントコンピュータ１０に報知し、次いで、フロントコンピュータ１０は、アンテナ５が検知しなくなった貸出し物２を貸し出された物と判断して、該貸出し物２が有料か無料かを判断し、有料の場合には、客室１の利用料金に加算するようにしている。

【００３３】この結果、アンテナ５は、常時収納箱３への貸出し物２の出入りを監視し、収納箱制御装置８は、その監視結果（貸出し物２の出入りの検知結果）を受けて、貸出し物２の出入り状況をフロントコンピュータ１０に報知しているので、フロント９において、常時客室１における貸出し物２の貸出し状況を把握することができる。そして、貸出し物２が貸し出されたことが報知されると、その貸出し物２が有料か無料かを自己の保有する貸出し物テーブル等から判断して、有料の貸出し物２が貸し出された場合には、客室１の利用料金に加算するので、顧客は、自分がわざわざフロント９まで出向くことなく、また、従業員がわざわざ客室１まで足を運ぶことなく、客室１に居ながらにして、収納箱３に収納された貸出し物２のレンタル方式による貸出しを自動で受けることができ、また、借り出した貸出し物２の返却を自動で行なうことができる。さらに、レンタル方式による貸出し物２の貸出しサービスが行なわれるので、今まで客室１での販売が難しかった高額の商品や、通常顧客により一度しか使用されない器具・商品であっても、顧客は、これらの器具・商品を安価にかつ手軽に利用することができる。これらにより、顧客にとっての利便性および客室１の利用価値が向上して、顧客の娯楽心・遊興心を高揚させることができる。また、宿泊・娯楽施設の省人化を図ることができる。

【００３４】また、フロントコンピュータ１０は、顧客が客室１を退室するとき、その退室信号を受けて、収納箱制御装置８から送られてきた過去の報知の履歴から、顧客に貸し出した物があるか否か、貸し出した物がある場合には、その貸出し物２が全て収納箱３に返却されているか否かを判断し、その結果、貸出し物２のいくつか

が収納箱3に返却されていないことが判明すると、顧客に該貸出し物2を収納箱3に返却するように促す情報を発する指令信号を発し、顧客が該情報を無視して再度退室を希望した場合には、返却されない該貸出し物2に相当する金額を客室1の利用料金に加算し、その後、電気錠を施錠する指令信号を収納箱制御装置8に発するようにされている。

【0035】この結果、顧客が客室1を退室するとき、収納箱3に返却されていない貸出し物2があると、その貸出し物2の収納箱3への返却を顧客に求め、それでもその貸出し物2が収納箱3に返却されないで、顧客が客室1を退室するときには、その貸出し物2に相当する金額を客室1の利用料金に加算して弁償させ、その後の貸出し物2の持ち出しを不可能にすることができるので、貸出し物2の自動返却が確実に実行されるとともに、宿泊・娯楽施設の保安を図ることができる。

【0036】このようにして、顧客は、貸出し物2の貸出しを受けたり貸出し物2を返却するために、自分がわざわざフロント9まで出向いたり、また、従業員がわざわざ客室1まで足を運んだりする必要がなくなり、顧客にとっての利便性および客室1の利用価値が向上して、顧客の娯楽心・遊興心を高揚させることができる。また、宿泊・娯楽施設の省人化と保安を図ることができる。

【0037】さらに、顧客に貸出し物2を収納箱3に返却するように促す情報を発する手段として、客室1に設置された貸出し用登録機15に内蔵されるスピーカ12やディスプレイ表示手段14が利用されるので、客室1に設置された機器を複数用途に兼用することができ、機器の設置数を節約して、コストの低減を図ることができる。

【0038】さらにまた、貸し出されていた貸出し物2には、フロント9において貸し出され、貸し出されたこ

とが記憶された貸出し物が含まれるようにされるので、全客室分の貸出し物2を用意する必要がなくなる。また、顧客が客室1を退室するときには、従業員が、わざわざ貸出し物2を客室1に取りに行く必要もない。しかも、電子式識別荷札4の使用により、返却の有無を自動的かつ確実に確認することができる。これらにより、顧客の娯楽心・遊興心をさらに高揚させることができるとともに、宿泊・娯楽施設の省人化とコストの低減をさらに図ることができる。

【0039】本実施形態において、退室信号は、顧客が客室1に設置された料金支払機11に設けられている退室ボタン13を押すことにより発生されることとされたが、これに限定されず、退室を告げる音声情報をフロント9に報知することによってもよく、退室ボタン13は、他の適切な場所に設置されてもよい。また、スピーカ12、ディスプレイ14は、料金支払機11に備えられるものが使用されたが、これに限定されず、客室1に設置されるテレビが備えるスピーカや画面等が使用されてもよい。その他、本願の発明の要旨を変更しない範囲で種々の変更が可能である。

【図面の簡単な説明】

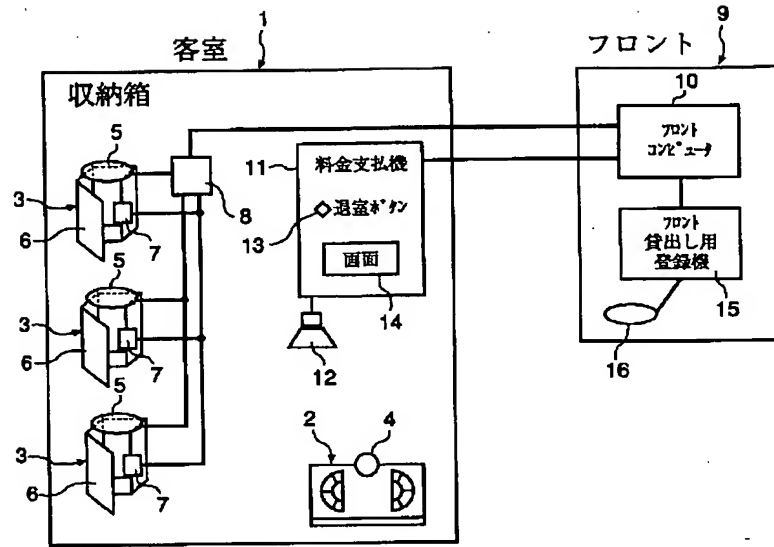
【図1】本願の請求項1ないし請求項5に記載された発明の一実施形態の客室における貸出し物の管理システムの機器構成を示す図である。

【図2】同管理システムの動作フローチャートを示す図である。

【符号の説明】

1…客室、2…貸出し物、3…収納箱、4…電子式識別荷札、5…アンテナ、6…前扉、7…施錠機、8…収納箱制御装置、9…フロント、10…フロントコンピュータ、11…客室用精算機、12…スピーカ、13…退室ボタン、14…ディスプレイ、15…フロント貸出し用登録機、16…アンテナ。

【図 1】



【図 2】

